

「山手線一降りたことがない駅」No.1 に選ばれた駒込の情報誌「こまごめ通信」

2019年4月から毎月発行されているフリーペーパー「こまごめ通信」が1冊の本にまとまりました。

「山手線で降りたことない駅No.1」に見事選ばれた「駒込駅」。

確かに駒込はめだつ駅ではありません。

でも、駒込人（こまごめびと）は静かに駒込への想いをつづってきました。

「こまごめ通信」には、こまごめ愛たっぷりの記事が載っています。

街を行き交うこまごめ人が、自分たちの好きな場所について静かに語る。こまごめへの愛をひっそり描く。

この街で生活する人たちの息づかいが感じられるような、そんな本です。

販売場所：フタバ書店（北区西ヶ原 1-55-12） 販売価格：800円+税



2020年3月 第十七号

「こまごめ通信」

駒込を愛する人ひと「駒込人」が発行するこまごめ通信。駒込人お気に入りの人やお店をこ紹介します。

昨年四月に発行を開始してから早や二年、おかげさまで、読者を増やしにしてくれる人も増えてきました。専らで取組む人があつた冬ももう終わり、「こまごめ通信」片手に、街へ繰り出していきましょう。

茶店のカウンターを出て

カーンさんのこと、カーンが描いてくれた中で、

「ムガルカフェ」カーンさんのピリヤニが美味いのは、カーンさんの日本語が、日本人もびっくりするくらい正確さがあることからも分かる。再敬語も通訳も、気遣いも文化理解もなしで、カーンさんに聞かされる自分もいついかなる時になっても、ある時カーンさんに「食べたことないのが食べたいです」と言ったら、「これ美味いです」と言われたので、「これ食べたことある」と言ったら、「いや、ない」と言いますよ」と言われた。

どちらにしても美味しかったので、また出てきたものを見た、初見だったので「これ食べたことなかった」と言ったら、「もう一度しよう、これは食べたことありますね、これありますね」と言われた。全食べたことあるメニユーを再敬語して教えてくれた。気ままに選んでくれたメニユーを覚えて、接客の態度として、わたしはその時にカーンさん（カーン先輩……）と思うようになった。

ムガルカフェは先日の夜まで営業してしまいましたが、わたしはあのピリヤニをまた食べられることを勝手に希望しています。カーン先輩にはまた教えて欲しいことたくさんある。しほ田ゆき

2016年冬、原宿駅前にインドの街か

どが現れた。チャイ（スライス入りミルクティー）、ココナッツからあげ、ピリヤニ（南アジアのまぜご飯料理）の店。本格的なおいしいチャイを、お茶の下で飲むのが好きだった。こだわりのスライスを作ったピリヤニは次に話題を呼び、有名になった。上野に住む友人が「原宿に毎週現れる、謎のインド料理屋」のピリヤニがおいしい」と教えてくれたことも、しかし、話題を呼んだ先に、姿を消してしまつた。

あんなにおいしいピリヤニを持って、あの人はどこへ行ったんだろう。そう思っていた2017年、後井組前にインド料理屋さんができた。のぞき込んでみると、ムガルカフェの文字。その年で一番うれい出来事だった。

ピリヤニはもちろん、ていねいに選ばれたかおり高いスライスのきいたカレーは絶品

「こまごめ通信」誕生秘話

駒込の古き良き洋菓子店が突然閉店。慌てて買いに行きながら、「ふだんから行くようにしていたらよかった」という思いでいっぱいになりました。そのことをきっかけに、Facebook グループ「駒込を楽しむ隊」（620名を超えました）を作り、駒込のお店やお気に入りの場所の情報を交換し続けてきました。「こまごめ通信」を通して、普段の生活の中に溶け込んだ駒込の魅力を再発見していきたいと思っています。



お問い合わせ先

こまごめ通信編集部（織田）050-3396-6023

komagome@meetsmeals.com